

研究分担者 岡野 光博 国際医療福祉大学 教授

研究要旨

薬物治療満足度を評価する包括的質問票である TSQM-9 を用いて、鼻茸を伴う慢性副鼻腔炎に対する生物学的製剤導入前の薬物治療満足度を評価した。有効性ドメインのスコアは 54.2、利便性ドメインのスコアは 62.9、全般満足度ドメインのスコアは 57.5 となった。他疾患での TSQM-9 スコアと比較すると、鼻茸を伴う慢性副鼻腔炎の薬物治療満足度は冠動脈疾患、2 型糖尿病などの生活疾患病あるいは喘息/アレルギー性鼻炎などのアレルギー疾患よりも低く、治療満足度が不十分であることが示唆された。

A. 研究目的

好酸球性副鼻腔炎は難治疾患であり、長期に渡る治療が必要である。一方、好酸球性副鼻腔炎に対する治療満足度については不明な点が多い。今回は、薬物治療満足度を評価する包括的質問票である TSQM-9（Treatment Satisfaction Questionnaire for Medication - 9）日本語版を用いて、鼻茸を伴う慢性副鼻腔炎に対する生物学的製剤導入前の薬物治療満足度を評価した。

B. 研究方法

生物学的製剤を使用していない 20 歳以上の鼻茸を伴う慢性副鼻腔炎患者のうち、①最近 3 か月以内に通院歴がある、②手術をしたことがある、または手術を勧められたことがある、③症状（嗅覚障害、鼻汁、鼻閉）が 3 か月以上継続している、患者を対象とした。当該患者を診療する医師 167 名が患者に調査への協力を依頼し、調査へ協力に同意した患者がオンラインで調査に回答した。調査項目は患者背景、鼻閉重症度、TSQM-9 などである。

（倫理面への配慮）

自由意志で調査が行われた。

C. 研究結果

300 例の患者から調査を完了した。うち好酸球性副鼻腔炎は 148 例（49.3%）であった。気管支喘息合併患者は 73 例（24.3%）、手術歴有の患者は 140 例（46.7%）であった。有効性ドメインのスコアは 54.2、利便性ドメインのスコアは 62.9、全般満足度ドメインのスコアは 57.5 となった。鼻閉の重症度に応じて満足度が低下した。また好酸球性、非好酸球性との間に有意な差を認めなかった。

D. 考察

TSQM-9 を用いた治療満足度については、冠動脈疾患で有効性ドメインのスコアは 67.7、利便性ドメインのスコアは 66.3、全般満足度ドメインのスコアは 69.2 であり、鼻茸を伴う慢性副鼻腔炎患者のスコアは冠動脈疾患よりも低値、すなわち治療満足度が低いことが示された。2 型糖尿病や喘息/アレルギー性鼻炎と比較した場合も同様の傾向を示した。

E. 結論

鼻茸を伴う慢性副鼻腔炎の薬物治療満足度は冠動脈疾患、2 型糖尿病などの生活疾患病あるいは喘息/アレルギー性鼻炎などのアレルギー疾患よりも低く、治療満足度が不十分であることが示唆された。さらに鼻閉の重症度に応じて治療満足度が低下することが示された。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1.Okano M, Kondo K, Takeuchi M, Taguchi Y, Fujita H. Health-related quality of life and drug treatment satisfaction were low and correlated negatively with symptoms in patients with severe refractory chronic rhinosinusitis with nasal polyps. *Allergology International* 70: 370-72, 2021.

2. Hirata Y, Kariya S, Kanai K, Fujiwara T, Makihara S, Omichi R, Higaki T, Haruna T, Oka

- A, Nishizaki K, Okano M. Effect of prostaglandin D2 on mRNA expression of three isoforms of hyaluronic acid synthase in nasal polyp fibroblast. **American Journal of Rhinology and Allergy** 35: 44-51, 2021.
3. Takahashi M, Oka A, Kariya S, Gion Y, Sato Y, Iwasaki S, Oyamada S, Matsubara A, Okano M. IgG4 expression in patients with eosinophilic otitis media. **ORL** 83: 167-171, 2021.
4. Takabayashi T, Asaka D, Okamoto Y, Himi T, Haruna S, Yoshida N, Kondo K, Yoshikawa M, Sakuma Y, Shibata K, Suzuki M, Kobayashi M, Kawata R, Tsuzuki K, Okano M, Higaki T, Takeno S, Kodama S, Yonekura S, Saito H, Nozaki A, Otori N, Fujieda S. A phase II, multicenter, randomized, placebo-controlled study of benralizumab, a humanized anti-IL-5R alpha monoclonal antibody, in patients with eosinophilic chronic rhinosinusitis. **American Journal of Rhinology and Allergy** 35: 861-70,

2021.

2. 学会発表

1. 岡野光博. 教育講演 (2) 鼻副鼻腔疾患の病態と治療指針 炎症のタイピングによるアレルギー性鼻炎・慢性副鼻腔炎の治療指針. 第122回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会 2021年5月14日.
2. Mitsuhiro Okano. Pathogenesis and new treatment strategy for eosinophilic chronic rhinosinusitis (eCRS). JAS Sister Symposium at EAACI Hybrid Congress 2021 July 11, 2021.
3. Mitsuhiro Okano. Vasculitis/Systemic diseases What is IgG4 disease. European Rhinologic Society 2021. September 27, 2021.

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他